

「ロータリーの目的は何ですか」という質問に、即座に適切な回答を返す人は殆どいません。

「一人一業種で選ばれた裁量権を持った職業人と専門職種の人が、毎週 1 回の例会に集まって・・・」とロータリーの原理原則を説明する人もいるでしょうし、職業奉仕を説く人、人道主義的な奉仕活動を説明する人もいるでしょう。いろいろな角度からロータリーのことを説明しているうちに、質問をした人も、答える人もいい加減くたびれてしまうというのが実際のところではないでしょうか。

英語で同じ質問をしたらどうでしょうか。「What is the object of Rotary?」何人かの人、この英語の質問を聞いただけで、何らかのヒントを見つけるかも知れません。

「object of Rotary」ロータリアンならば、どこかで聞いたことのある定例句ですね。そうです。「ロータリーの綱領」です。「object of Rotary」を素直に「ロータリーの目的」と訳しておけば何の問題も起こらなかったのに、どこかの愚かな日本人が、格好をつけて、「ロータリーの綱領」と訳してしまったために、「ロータリーの目的」を尋ねられても、即座に答えられない日本人を作ってしまったのです。

「ロータリーの目的」は「ロータリーの綱領」であるという事実を再確認しながら、「ロータリーの綱領」すなわち「ロータリーの目的」がどのように変遷して現在に至ったのかということ、検証してみたいと思います。以下、本文中では「ロータリーの綱領」という言葉は使わず「ロータリーの目的」に統一します。

法さえ犯さなければ、如何なる手段を駆使しようとも、大金を手中にした者が成功者としてもてはやされる、極端ともいえる自由主義経済の下でロータリーは出発しました。大都会で事業を営む実業

家にとっては、周囲にいる同業者はすべてライバルであり、僅かな隙でも見せようものならば、寄って集って引きずり落とされる競争社会の中では、誰一人として信用できる人はなく、孤独感と、いつこの自由競争の落伍者になるのかという恐怖感に苛まれていました。そんな中であって、胸襟を開いて、心から打ち溶け合ってどんなことでも語り合える友人を得るために創られたのがロータリークラブです。

従って、ロータリー創立当初の最も重要な目的は会員同士の親睦を深めることでした。ロータリーの一人一業種制に基づく職業分類制度は、親睦を阻害する要素となる同業者を排除するために設けられた制度であり、やがてこの異業種の組織を利用して、お互いの事業を活用した物質的相互扶助によって事業を発展させる方策がとられるようになりました。

1906年1月、ポール・ハリス、マックス・ウルフ、チャールズ・ニュートンによってシカゴ・クラブの最初の定款が起草された時点では、まだ「ロータリーの目的」は存在しておらず、僅か二箇条に纏められた定款そのものが、「ロータリーの目的」を表わしていました。

<シカゴ・クラブ定款 1906年1月制定>

1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大
2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進
1. The promotion of the business interests of its members.
2. The promotion of good fellowship and other desiderata ordinarily incident to social clubs.

定款の内容は会員の事業の発展と親睦を謳い上げたものであり、事業発展の手段としてもっばら推奨されていた方法は、会員同士の物質的相互扶助でした。

1906年4月、フレデリック・ツイードがシカゴ・クラブの定款を示しながら、物質的互惠の特典を説明して、ドナルド・カーターに入会を勧めた際、カーターは「社会の利益になることを考える組織は発展するが、自分たちのことだけを考えている組織には将来性はありません。」と言って入会を断りました。物質的互惠と親睦のみに終始することに限界を感じていたポール・ハリスは、彼の提言を受け入れて、1906年12月に、対社会的奉仕活動を示唆する第3条を追加し、その後続々と創立されたシカゴ以外のクラブは、第3条の「シカゴ市」の部分それぞれのテリトリーを表す市名に置き換え、他の部分はほぼそのままの形で使いました。

＜シカゴ・クラブ定款 1906年12月改正＞

1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大
 2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進
 3. シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める
1. The promotion of the business interests of its members.
 2. The promotion of good fellowship and other desiderata ordinarily incident to social clubs.
 3. The advancement of the best interests of Chicago and the spreading of the spirit of civic pride and loyalty among its citizens

定款に「市民としての忠誠」という言葉で奉仕概念が導入され、その実践活動の一端として、公衆便所建設運動に取り組んだものの、依然として会員同士の相互取引を中心とした物質的相互扶助は盛んで、クラブに統計係 Statistician をもうけて、会員同士の取引を発表させ、その結果に一喜一憂する状態が続きました。

重要事項.....毎回の食事の数を確定し、会員相互で取引されたビジネスの量を確認する必要があるため、この郵便物を直ちに返送すること。あなたが取引したビジネスを立証する記録をつけて、その会員の名前をしめした記録を大切に保管しておくこと。

次回の例会に参加しますか (は い) (同伴者数)
(いいえ)

会 員 報 告

前回の例会以降 私は 人の会員から 件の取引を提供された。
私は 人の会員に対し 件の取引を仲介した。
私は 人の会員に対し 件の取引を提供した。

1911年に発行された全米ロータリークラブ連合会の会員名簿には、その左側のページには、当時24クラブ創立されていたロータリークラブの役員の名前と住所が記載されており、右側のページには、その街における有名な事業所の名称や住所や電話番号などが、抜粋されて記載されています。遠く離れた町の間で取引が行われる際、この名簿が活用されたものと思われます。

ミネアポリスの果物商が、カリフォルニアのオレンジを買い付けるとき、どこに注文したら、自分が望む品物が送られてくるのかは

わかりません。また、カリフォルニアのオレンジの農園主も、その代金が無事に回収できるかどうか、全くわからないのが、当時の状況でした。もしも、その双方が、ロータリアン同士ならば、何も心配もなく取引ができるわけです。

同じく 1911 年の全米ロータリークラブ連合会の組織表を見ると、Local trading committee、Intercity trading committee、National trading committee という委員会名が記載されています。これは、市内や近郊や国内の商取引を円滑にするために作られた委員会です。当時はこのようにして、ロータリアン同士の物質的相互扶助がさかんに行われていたのです。

1910 年に、全米 16 クラブの連合体として全国ロータリークラブ連合会が結成され、最初の「ロータリークラブの目的」が制定されました。当時のロータリークラブはアメリカ国内に限定されていたことから、この連合会を、国内における全てのクラブの連合体として位置付けることが明記された以外は、その内容も当時のロータリーの考え方を背景とした、[市民としての忠誠][進歩的な商取引][商業上の利益の増大]が謳われており、シカゴ・クラブ定款の域を出ていません。当初、原案にあった「会員相互の取引関係を増大すること」が、「進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること」に修正されたことは、物質的互惠からの脱却を意図するものとして注目には値いしますが、「加盟ロータリークラブの個々の会員の事業上の利益を増大すること」は、依然として、物質的互惠の世界から抜け出せずにいることを物語っています。

この大会において、アーサー・フレデリック・シェルドンが、“He profit most who serves his fellows best.” の声明を発表しましたが、

その真意を理解した人は少なく、従って「ロータリークラブの目的」にほとんど影響を与えていません。

＜ロータリークラブの目的 1910年シカゴ大会＞

1. アメリカ全土に加盟ロータリークラブを結成することによって、ロータリーの原則を拡大発展させること
 2. アメリカ全土の加盟ロータリークラブの業務と原則を統一すること
 3. 市民としての誇りと忠誠心を喚起しかつこれを奨励すること
 4. 進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること
 5. 加盟ロータリークラブの個々の会員の事業上の利益を増大すること
1. To extend and develop Rotary principles by the organization of affiliating Rotary clubs throughout America
 2. To unify the work and principles of the affiliating Rotary clubs throughout America
 3. To arouse and encourage civic pride and loyalty.
 4. To promote progressive and honorable business methods.
 5. To advance the business interests of the individual members of the affiliating Rotary clubs

1911 年はロータリーの奉仕理念、すなわち現在の職業奉仕に相当する考え方が、アーサー・フレデリック・シェルドンによって提唱され、その理念を端的に表現した「He profits most who serves best」というフレーズが、この年のポートランド年次大会で採択された「ロータリー宣言」の結語として正式に決定されました。

この大会のエキスカージョンとして実施された船旅で、創立間もないミネアポリス・ロータリークラブ会長、フランク・コリンズが、「Service, not self」というフレーズを発表しました。後世の人がこれを「無私の奉仕」と訳し、「己を犠牲にして他人に奉仕すること」という高い宗教性を含んだ説明をつけましたが、これはまったく間違った解釈であり、フランク・コリンズのスピーチ原稿を熟読すれば、当時一般的に行われていた会員同士の物質的相互扶助を会員外にも拡大していこう意味であり、アーサー・シェルドンの「He profits most who serves best」を補完するフレーズだということが容易に理解できます。従って、後に発表され、現在、対社会的奉仕活動のモットーとして親しまれている「Service above self」とはまったく異質のフレーズだと考える方が適切です。

1912年、アメリカ以外の国にロータリーが拡大され、連合会の名称が、国際ロータリークラブ連合会と変更されたことを機会に、「ロータリークラブの目的」が抜本的に改正されると共に、この年度から、国際ロータリークラブ連合会の「目的」とロータリークラブの「目的」とが分離されました。前述のように、ポートランド大会で、シェルドンが提唱した奉仕理念が、ロータリーの一般奉仕理念として確定したことを受けて、従来の、会員の親睦と物質的互惠を中心にした社交クラブ的な色彩が一掃されました。ロータリークラブの目的の中に盛り込まれた、職業の価値の認識と自己の職業の神聖化、職業モラルの向上、精神的相互扶助の奨励は現在の職業奉仕理念に通じるものと言えましょう。

なお、「promotion of fellowship 親睦の推進」という従来の目的が「promote the acquaintance 知り合いを広める」に変化したことは、この段階において、「会員の親睦を深めること」がロータリーの

目的から除外されたことを意味しています。

<国際ロータリークラブ連合会の目的 1912年ダールズ大会>

1. ロータリーの原則を標準化し、全てのロータリークラブが地元の事情に適応する範囲で、それを採択するように奨励すること
 2. 世界の全ての商業中心地にロータリークラブを結成するように奨励推進すること
 3. 既存するロータリークラブの活動と、在籍する会員および地域社会に対するクラブの価値を研究し、その結果得られた情報を全てのロータリークラブに明示すること
 4. 広い友愛の精神と、各国各都市の事業および専門職種に従事するロータリアンと、加盟クラブの間の利益の調和を推進すること
1. To standardize Rotary principles and to urge their adoption by all Rotary clubs in so far as they may be applicable to local conditions.
 2. To encourage and promote the organization of Rotary clubs in all commercial centers of the world.
 3. To study the work of existing Rotary clubs and their value to their respective members and communities and to clear the information thus acquired for the benefit of all Rotary clubs.
 4. To promote a broad spirit of fraternity and unity of interest among Rotarian business and professional men of different cities and countries and among the affiliated clubs

<ロータリークラブの目的 1912年ダールズ大会>

1. すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、

各会員の職業を社会に対する奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること

2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めるよう奨励すること
3. 構想や事業運営方法の交換によって各会員の能率を増進すること
4. 奉仕の一つの機会として、また成功への道として、情理ある交友関係を推進すること
5. 公共の福祉に対する各会員各自の関心を促し、かつ市の発展のために他の人々と協力すること

1. To promote the recognition of the worthiness of all legitimate occupations, and to dignify each member's occupation as affording him an opportunity to serve society.
2. To encourage high ethical standards in business and professions.
3. To increase the efficiency of each member by the exchange of ideas and business methods.
4. To promote the scientizing of acquaintance as an opportunity for service and an aid to success.
5. To quicken the interests of each member in the public welfare and to cooperate with others in civic development

拡大が順調に進められクラブ数が 200 近くまで増加したので、始めて地区制度がしかれ、それに伴って今までばらばらに行われていた各クラブの管理運営を統一するために、1915 年に標準クラブ定款および模範クラブ細則が採用されると共に、国際ロータリークラブ連合会の目的およびロータリークラブの目的の一部が改正されまし

た。なお 1913 年のバッファロー大会直後より作業が開始された道徳律がこの大会で正式に採択されて、職業奉仕に関する理論構築が完了しましたが、「ロータリークラブの目的」には大きな変化はありません。

<国際ロータリークラブ連合会の目的>

1915 年サンフランシスコ大会

1. ロータリーの原則および活動を標準化し、普及すること
 2. 世界の全ての商業中心地にロータリークラブを結成するように奨励、推進、監督すること
 3. 既存するロータリークラブの活動と、在籍する会員および地域社会に対するクラブの価値を研究し、その結果得られた情報を全てのロータリークラブに明示すること
 4. 偏見のない親睦の精神をロータリアン同士およびロータリークラブ間に推進すること
1. To standardize and disseminate Rotary principles and practices.
 2. To encourage, promote and supervise the organization of Rotary clubs in all commercial centers of the world.
 3. To study the work of existing Rotary clubs and their value to their respective members and communities and to clear the information thus acquired for the benefit of all Rotary clubs
 4. To promote the broad spirit of good fellowship among Rotarians and Rotary clubs.

<ロータリークラブの目的 1915 年サンフランシスコ大会>

1. すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各会員の職業を社会に対する奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること
 2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めるよう奨励すること
 3. 構想や事業運営方法の交換によって各会員の能率を増進すること
 4. 奉仕の一つの機会として、また成功への道として、情理ある交友関係を推進すること
 5. クラブの地域社会の公共の福祉に対するクラブ会員の関心を高め、かつ、市、社会、商工業の発展のために他の人々と協力すること
 6. 同僚や社会一般のために奉仕したいという意欲を起すよう会員を鼓舞すること
1. To promote the recognition of the worthiness of all legitimate occupations, and to dignify each member's occupation as affording him an opportunity to serve society.
 2. To encourage high ethical standards in business and professions.
 3. To increase the efficiency of each member by the exchange of ideas and business methods.
 4. To promote the scientizing of acquaintance as an opportunity for service and an aid to success.
 5. To quicken the interests of each member in the public welfare of his community and to cooperate with others in civic, social, commercial and industrial development.
 6. To stimulate the desire of each member to be of service to his

fellowmen and society in general

1918年、カンザス・シティ大会において、国際ロータリークラブ連合会の目的のみが、次のように改正されました。

<国際ロータリークラブ連合会の目的>

1918年カンザスシティ大会

1. 世界中のすべての商業中心地にロータリークラブを結成するよう奨励し、推進し、監督すること
2. 地方的活動ではなく、全加盟ロータリークラブの仕事および活動を調整し、標準化し、かつ全般的に指導すること
3. 国際連合会自身の活動を通じ、また加盟ロータリークラブを通じて次の事項を鼓吹し育成すること
 - (a) 実業および専門職種における高い道徳的水準
 - (b) すべての尊敬すべき事業の基礎としての奉仕
 - (c) 地域社会の市民、商業、社会の繁栄および道徳の高揚に対する全ロータリアンの積極的関心
 - (d) 成功を助け、かつ奉仕の一つの機会として広範な交友関係の増進
 - (e) ロータリアンの能率と有用性を高める手段として、構想および事業運営方法の相互交換
 - (f) すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各ロータリアンの職業を、社会への奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること
4. 専ら全ロータリアンのみの使用と利益のために、国際ロータリーの徽章、その他の記章を創案し、採択し、保存すること

1. To encourage, promote and supervise the organization of Rotary clubs in all commercial center throughout the world.
2. To coordinate, standardize and generally direct the work and activities, other than local activities, of all affiliating Rotary clubs.
3. To encourage and foster through its own activities and through the medium of affiliating Rotary clubs
 - (a) High ethical standards in business and professions
 - (b) The ideal of SERVICE as the basis of all worthy enterprise
 - (c) The active interest of every Rotarian in the civic, commercial, social and moral welfare of his community
 - (d) The development of a broad acquaintanceship as an opportunity for service as well as an aid to success
 - (e) The interchange of ideas and of business methods as a means of increasing the efficiency and usefulness of Rotarians
 - (f) The recognition of the worthiness of all legitimate occupations and the dignifying of the occupation of each Rotarian as affording him an opportunity to serve society
4. To create, adopt and preserve an emblem, badge, or other insignia of International Rotary for the exclusive use and benefit of all Rotarians.

1919年のソルトレーク・シティ大会で、標準ロータリークラブ定款が改正され、ロータリークラブの目的と国際ロータリークラブ連合会の目的とが統合されました。

1921年のエジンバラ大会で、アメリカ本土を離れて始めてスコットランドで国際大会が開催されたことを記念して、綱領に国際奉仕に関する条文が加えられました。

＜ロータリーの目的 1921年エジンバラ大会＞

1. 世界中のすべての商業中心地にロータリークラブを結成するよう奨励し、推進し、監督すること
2. 地方的活動ではなく、全加盟ロータリークラブの仕事および活動を調整し、標準化し、かつ全般的に指導すること
3. 国際連合会自身の活動を通じ、また加盟ロータリークラブを通じて次の事項を鼓吹し育成すること
 - (a) 実業および専門職種における高い道徳的水準
 - (b) すべての尊敬すべき事業の基礎としての奉仕
 - (c) 地域社会の市民、商業、社会の繁栄および道徳の高揚に対する全ロータリアンの積極的関心
 - (d) 成功を助け、かつ奉仕の一つの機会として広範な交友関係の増大
 - (e) ロータリアンの能率と有用性を高める手段として、構想および事業運営方法の相互交換
 - (f) すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各ロータリアンの職業を、社会への奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること
4. ロータリーの奉仕の理想に結ばれた、あらゆる国の実業人と専門職業人の親交を通じて国際間の平和と親善の推進に助力すること
5. 専ら全ロータリアンのみの使用と利益のために、国際ロータリー

の徽章、その他の記章を創案し、採択し、保存すること

1. To encourage, promote and supervise the organization of Rotary clubs in all commercial center throughout the world.
2. To coordinate, standardize and generally direct the work and activities, other than local activities, of all affiliating Rotary clubs.
3. To encourage and foster through its own activities and through the medium of affiliating Rotary clubs
 - (a) High ethical standards in business and professions
 - (b) The ideal of SERVICE as the basis of all worthy enterprise
 - (c) The active interest of every Rotarian in the civic, commercial, social and moral welfare of his community
 - (d) The development of a broad acquaintanceship as an opportunity for service as well as an aid to success
 - (e) The interchange of ideas and of business methods as a means of increasing the efficiency and usefulness of Rotarians
 - (f) The recognition of the worthiness of all legitimate occupations and the dignifying of the occupation of each Rotarian as affording him an opportunity to serve society
4. To aid in the advancement of international peace and goodwill through a fellowship of business and professional men of all nations united in the Rotary Ideal of Service.
5. To create, adopt and preserve an emblem, badge, or other insignia of International Rotary for the exclusive use and benefit of all Rotarians.

1922年のロスアンゼルス大会において、国際ロータリークラブ連合会が、国際ロータリーと改称され、定款、細則が抜本的に改正されたことに伴って、「ロータリーの目的」も大幅に改正されました。

＜ロータリーの目的 1922年ロスアンゼルス大会＞

ロータリーの目的は次の事項を奨励かつ育成するにある

1. すべての尊ぶべき事業の基礎として奉仕の理想
2. 実業および専門職業の道徳的基準を高めること
3. ロータリアンすべてがその個人、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の機会として知り合いを広めること
5. あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること、そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること
6. ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、理解、親善と国際間の平和を増進すること

The objects of Rotary are to encourage and foster:

1. The ideal of SERVICE as the basis of all worthy enterprise.
2. High ethical standards in business and professions.
3. The application of the ideal of service by every Rotarian to his personal, business and community life.
4. The development of acquaintance as an opportunity for service.
5. The recognition of the worthiness of all useful occupations and the dignifying by each Rotarian of his occupation as an opportunity to serve society.

6. The advancement of understanding, goodwill, and international peace through a world fellowship of business and professional men united in the Rotary ideal of service

1923年、決議 23-34「ロータリーの目的に基づく諸活動に関するロータリーの方針」が採択され、R I とクラブとロータリアンの機能が明確化されると共に、クラブが行う奉仕活動の新たな指針が確定しました。

現在、決議 23-34 は社会奉仕だけに適用されドキュメントだと考える人が多いようですが、これが策定された当初は、「ロータリーの目的に基づく諸活動に関するロータリーの方針」という表題がついていたことは、社会奉仕にだけ適用されるものではなく、ロータリーの奉仕活動全般に適用すべきであることを忘れてはなりません。

1927年のオステンド大会で、イギリスの主張を取り入れた目標設定計画 Aims and Objects Plan に基づいて四大奉仕の原則が決定しました。これに基づいて、1935年、メキシコ・シティ大会において「ロータリーの目的」が変更され、四大奉仕に対応した項目に整理されました。内容は、現在の「ロータリーの目的」とほぼ同じですが、タイトルの原文が **Objects of Rotary** と複数形であることから、この「ロータリーの目的」は前文と、四箇条の本文から成り立っていると解釈する必要があります。

＜ロータリーの目的 1935年メキシコ・シティ大会＞

ロータリーの目的は尊ぶべき事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある

1. 奉仕の機会として知り合いを拡めること

2. 実業および専門職業の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識をふかめること。そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること
3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること

The Objects of Rotary are to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

1. The development of acquaintance as an opportunity for service;
2. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying by each Rotarian of his occupation as an opportunity to serve society;
3. The application of the ideal of service by every Rotarian to his personal, business and community life;
4. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional men united in the ideal of service.

1950年のデトロイト大会で、決議 50-11 が採択されて、**He profits most who serves best** と **Service above** の二つのフレーズが正式にロータリー・モットーとして採択され、ロータリーの奉仕理念が確定

しました。

1951年に開催されたアトランティック・シティ大会において、国際ロータリーおよび標準ロータリークラブ定款が改正され、Objects of Rotary が Object of Rotary と単数形に改められたことによって、従来の四ヶ条の「ロータリーの目的」が一ヶ条の本文と四つの付随項目となって、現在と全く同じ「ロータリーの目的」に変更され、今日に至っています。

尚、1989年の手続要覧から「奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人」が「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人」に変更されましたが、これは原文が変わったわけではなく、日本語訳のみが変更されたものです。

<ロータリーの目的 1951年アトランティック・シティ大会>

ロータリーの目的は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること
2. 事業及び専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること
3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に、常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門業務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage

and foster:

1. The development of acquaintance as an opportunity for service;
2. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society;
3. The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business, and community life;
4. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional persons united in the ideal of service.

現行「ロータリーの綱領」の解釈

主文

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

- ① the Object of Rotary は国際ロータリー定款および標準ロータリークラブ定款の第4条において、ロータリーの目的を定めた最も重要なドキュメントであり、決して信条や綱領 Creed といった抽象的なものではありません。これを綱領と邦訳することによって、ロータリーの目的がはっきり理解できないロータリアンが生まれる大きな原因となっているのではないのでしょうか。the Object of Rotary の正しい邦訳は「ロータリーの目的」です。
- ② encourage を「鼓吹」と訳すことには時代錯誤を感じます。「奨

励」の方が一般的で素直な訳です。

③ 米山梅吉は **This Rotarian Age** (邦題 ロータリーの理想と友愛)の邦訳に当たって、**the ideal of service** を「奉仕の理想」と訳しました。それ以来、日本のロータリーの世界では奉仕の理想という言葉が定着しているようですが、一般の人にとってはもちろんのこと、ロータリアンにとっても甚だ難解な言葉であることは間違いありません。**service** を「奉仕」と訳すこと自体いろいろと疑義があるところですが、この際、奉仕はそのままさて置くとしても、**ideal** はその語源から考えても理念と訳すほうが適切ではないでしょうか。従って **the ideal of service** は「奉仕理念」と訳すほうが理解しやすいと思います。

④ **a basis of worthy enterprise** は素直に、「有益な企業活動の基本として」と訳したほうがきれいな文章になるのではないのでしょうか。

⑤ **in particular** はこの場合、「特に」ではなく、「詳細は」と訳すべきです。

以上の点を勘案してこの主文を邦訳すると次のようになります。

「ロータリーの目的は、有益な企業活動の基本として、奉仕理念を奨励し育成することである。その詳細は以下の項目を奨励し育成することである。」

付帯説明第1項

1. The development of acquaintance as an opportunity for service.

⑥ **acquaintance** という単語に関して、1927年にイギリスの Vivian Carter が書いた **The Meaning of Rotary** の第4章 **Acquaintance and Fellowship** には、**The development of acquaintance as an**

opportunity for service という節があり、**acquaintance** について次のように説明しています。「**acquaintance** という言葉は、通りや列車やバスの中や、クラブやレストランの中で偶然話し合ったり、会釈をしたり、微笑んだりする程度の、**friend** 「友人」と **stranger** 「見知らぬ人」との中間に属する、ちょっとだけ、または表面上だけ知っている人という使われ方をしている。」この文章を見る限り、**acquaintance** は「面識のある人」すなわち「知り合い」と訳するのが正しいのではないかと思います。

「心の友を得る」「親睦を深める」と説く人もいますが、それは間違いです。確かに初期の「ロータリーの目的」には **The promotion of good fellowship** という文言があり「親睦を深める」ことが目的の一つでしたが、1918年からは **The development of acquaintance** 「知り合いを開拓する」ことに変わったのです。すなわちクラブの中で会員同士が親睦を深めるのではなくて、知り合いの人をどんどんロータリー運動の中に引き込んでいこうという意味なのです。

以上の点を勘案して付帯説明1を邦訳すると次のようになります。

「1 奉仕の機会を得るために、知り合いを開拓すること」

付帯説明第2項

2. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society

⑩ **an opportunity to serve society** というフレーズは、単に⑨だけに係るのではなく、⑦⑧⑨に共に係ると考えるべきです。

⑦は事業および専門職務の高い倫理基準を保ち、⑧は世に有用なす

すべての職業の価値を認識し、⑨はロータリアン各自の職業を威厳あるものにするを意味します。

ロータリー運動の中核となる職業奉仕を強調するために、毎回のよう年次大会で修正が加えられ、最終的にこの文章に落ちついた模様です。

以上の点を勘案して付帯説明 2 を邦訳すると次のようになります。

「2 社会に奉仕する機会を得るために、事業および専門職務の高い倫理基準を保ち、世に有用なすべての職業の価値を認識し、ロータリアン各自の職業を威厳あるものにする」と

付帯説明第 3 項

3. The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business, and community life

⑪ application は単なる適用ではなく「実践」と訳すべきでしょう。ロータリー哲学は実践哲学ですから、行動が伴わなければなりません。例会を通じて奉仕理念を研鑽し、みずからの個人生活、職業生活、社会生活の場で、奉仕活動の実践に移さなければなりません。職業生活の場における実践が職業奉仕、社会生活の場における実践が社会奉仕および国際奉仕となります。

以上の点を勘案して付帯説明 3 を邦訳すると次のようになります。

「3 個々のロータリアンが自らの個人生活、職業生活、社会生活において、奉仕理念を実践に移すこと」

付帯説明第 4 項

4. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and

professional persons united in the ideal of service

⑫ a fellowship は可算名詞なので「団体・組織」を意味します。従って a world fellowship は世界的親交ではなく「世界的な組織」と訳すべきでしょう。

国際奉仕の実践に関しては、すでに付帯説明第 3 項の中で「社会生活」の中に含めて述べられているのですが、1921 年に初めてアメリカを離れてスコットランドのエジンバラで開催された年次大会を記念して、この条文が加えられました。

以上の点を勘案して付帯説明 4 を邦訳すると次のようになります。

「4 奉仕理念に結ばれた、事業と専門職種の人たちの世界的な組織を通じて、国際理解と親善と平和を促進すること」

以上の点を勘案して国際ロータリーおよび標準ロータリークラブ定款第 4 条を翻訳しなおすと、次のようになります。現行の定款と比較してみてください。ずっと判りやすくなったはずですよ。

定款第 4 条 「目的」

- 1 奉仕の機会を得るために、知り合いを開拓すること
- 2 社会に奉仕する機会を得るために、事業および専門職務の高い倫理基準を保ち、世に有用なすべての職業の価値を認識し、ロータリアン各自の職業を威厳あるものにする
- 3 個々のロータリアンが自らの個人生活、職業生活、社会生活において、奉仕理念を実践に移すこと
- 4 奉仕理念に結ばれた、事業と専門職種の人たちの世界的な組織を通じて、国際理解と親善と平和を促進すること